



Title	デザイン・装飾・スノッベリ：19世紀前半のイギリスのデザイン状況をめぐって
Author(s)	金村, 京一
Citation	デザイン理論. 1990, 29, p. 106-107
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/52720
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

第121回 例会発表要旨

デザイン・装飾・スノッベリ — 19世紀前半のイギリスのデザイン情況をめぐって —

金村 京一

1851年、ロンドンで開かれた第一回万国博覧会は、産業革命成熟期に於けるデザインの混乱を、最も顕著に露呈してしまったイベントとして、位置づけられることが多い。そこに現れたデザインの混乱とは、以下のようにまとめることができよう。即ち、機械による手工作製品の模造であり、それに伴なう品質の劣化を隠蔽する為の、歴史的装飾様式の、過度にして無反省な工業製品への付加である。博覧会に展示された製品の殆どは、装飾やプロポーションの原則から著しく逸脱していたとされる。

そのような混乱が生じた原因として、一般に、産業革命という大変革に、産業の担い手である産業資本家や労働者が、意識変革を充分に対応させることができなかつたからだとされる。産業革命による生産の場への機械及び機械的な動力の導入は、「もの作り」の在り方を根本的に変えてしまったにも拘らず、社会の大部分はその変化を認識できなかつたのである。

今回の発表は、イギリスに於ける社会階級構成の変化という観点から、上記の事態について再考察を試みた。17世紀、即ち産業革命胎動期以前のイギリスには、二つの階級があった。支配者としての貴族（ノービリティ）、地主（ジェントリ）と、被支配者としての農民及び労働者である。ところが産業革命成熟期のイギリス社会は、三つの階級に分かれていた。先の二つと、新たなる階級、産業資本家、新興ブルジョアジーである。この上流階級と下層階級の間に新たに生じた階級、新興ブルジョアジーの意識動向が、19世紀イギリスのデザインの混乱の助長に、少なからぬ役割を果たしたと考えられる。

彼ら新興ブルジョアジーは、経済的な面では、上流階級に近づきつつあり、一部には凌ぐものもあった。元来、成り上がり階級である彼らには、様々な意味で上流階級に近づこうとする欲求があり、彼らは生活様式を上流階級にまねることでその欲求の実現を計ろうと企てた。イギリスに於ける上流階級とは、本質的に余暇階級であり、彼らの生活は、政治や外交、或いは学問やスポーツ、

芸術への愛好に費やされた。しかしブルジョアジーは、本質的に労働階級であり、彼らの生活には、上流階級に許された、文化や芸術を楽しむという余裕はなかったのである。彼らに可能だったのは、上流階級と同じものを所有するという、消費活動であった。彼らは、彼らの目に美術品と映るものを所有しようとした。しかし日々の生産活動の監理に追われるブルジョアジーには、芸術品を楽しむ為の見識を育てることはできなかつた。彼らは、粉い物の産業美術品もどきを喜こび、彼らの上流階級に近づこうとする意識、スノッペリを、誤謬の中で満足させていたのである。

しかし現在の私達が、19世紀イギリスのブルジョアジーのスノッペリに基づく見識の乏しさを、笑うことはできまい。現代社会には、当時のイギリスのような明確な階級構造は存在しないが、云わば趣味についての階級意識が潜在するかのように思われる。そして現代のデザインは、趣味に関する潜在的な階級意識間の交感、現代のスノッペリを巧みに操作することに、一つの有効な戦略を見ているように思われるのである。

(平成元年9月2日 京都芸術短期大学)